

令和5年12月6日

由仁町議会

議長 後 藤 篤 人 様

総務産業常任委員会

委員長 佐 藤 英 司

総務産業常任委員会道内行政視察報告書

本委員会は、次のとおり道内行政視察を終了したので、由仁町議会会議規則第77条の規定により報告します。

記

1 視察事項

- (1) 更別村における議会の活性化について
- (2) 大樹町におけるまちづくりについて

2 期日

令和5年10月17日（火）・18日（水）

3 視察地

十勝管内更別村・十勝管内大樹町

4 派遣議員

佐藤 英司、加藤 重夫、東 貴之、大畠 敏弘、野市 裕司、中村 隆浩、
早坂 寿博、議長 後藤 篤人

5 随員職員

議会事務局長・議会事務局担当主査

6 視察内容

別紙のとおり（報告書文責 委員長 佐藤 英司）

更別村における議会の活性化について

○更別村の概要

更別村は、北海道十勝平野の南西部に位置し帯広市の南35Kmの地点にあり、人口は9月1日現在で3,131人です。

地勢は、ところどころ起伏があるものの、多くは平坦な土地であり、総面積のうち耕地面積が66%を占めます。冷涼で寒暖の差が大きく、農業に適した土地であり、広大な土地を生かした大規模機械化農業は、一戸当たりの経営面積、トラクター所有台数ともに日本最大規模を誇ります。

○議会の構成について

議員定数は8人であり、総務厚生常任委員会、産業文教常任委員会の2つの常任委員会があります。

議員の平均年齢は62.1歳で、最年長は72歳、最年少は41歳です。

今年度の議会議員選挙の結果、議員8人中、女性議員が2人となり女性の政治参画が進んでいます。

○議会活性化の取組について

(1) 議会報告会の開催

開かれた議会を目指して、議会の運営改善と政策立案に生かすことを目的とし、年1回、村民に議会活動について報告するとともに、意見交換を実施しています。

(2) 本会議の公開

議会改革の一環として、平成28年から全員協議会において協議を進め、平成30年第3回定例会からY o u T u b eによるインターネット中継を行っており、令和4年の平均視聴回数は129.6回／本、チャンネル登録者数は1月1日現在で100人となっています。視聴回数、チャンネル登録者数ともに増加傾向で推移しています。

また、設備の設置にかかる事業費は約532万円でありました。

(3) 女性議員について

近年、地方議会議員選挙における無投票当選の増加の傾向が強まっており、更別村議会においても、議員のなり手不足の問題が顕著であり、無投票となることが多い状況でした。

その様な中、現在、議員8人中女性議員が2人となり、女性の政治参画が進ん

でいることから、議員に立候補するに至ったこれまでの経緯等について、本人から話を聞きました。

2人の置かれている状況は大きく違いましたが、2人ともそれぞれ叶えたい思いがあることで立候補に至り、立候補するに当たっては、めぐりあわせの様なものもあるとのことですが、共通していた課題は「家族の理解・協力が必要」ということでした。男性でも言えることではありますが、当町において女性の政治参画を進める上でも解決する必要がある課題だと感じました。

○更別村の視察を終えて

今回の視察により、更別村の議会の活性化について話を聞きましたが、当町より人口規模は小さい村ではありますが、少しずつでも着実に議会活性化の取組を進めていることがうかがえました。

また、今回特に女性議員から直接、議員になるまで経緯、思いなどの話を聞くことができ、議長は「女性の感性による議員活動に期待している」と話をしていました。

当町においても、視察で学んだことを生かし、議会活性化の取組を進めて行きたいと考えています。

今回視察に当たり、対応して頂きました更別村の関係各位に感謝申し上げ、視察報告といたします。

大樹町におけるまちづくりについて

○大樹町の概要

大樹町は、北海道の南東部、十勝総合振興局管内の南部に位置し、東は太平洋、西は日高山脈に接し、中央部は広大な十勝平野が広がり、農業を中心に漁業、林業を基幹産業として発展してきました。

人口は8月末現在で5,406人、面積は815.67Km²と北海道で17番目に広い面積を有しています。

宇宙のまちづくりを進め、近年は注目度が急上昇し、全国的な知名度も高い町です。

○まちづくりの取組

大樹町は航空宇宙産業基地の候補地とされた1985年以来、「宇宙のまちづくり」を進めており、JAXAの様々な実験、民間企業によるロケット発射実験等が年間を通じて行われています。あらゆる宇宙機・航空機の離着陸場、実験場とする「北海道スペースポート計画」実現に向けての取組を進めています。

大樹町は高緯度かつロケットの打上げ方向である東と南が海で開かれており軌道傾斜角が広いこと、広大な敷地による拡張性の高さ、海路と空路が混み合っておらず打上げウインドウの確保性が高いこと、1年を通して青空が広がる日が多いなど地理的に優位性があることが発展に繋がっています。

将来的に宇宙産業の拡大に伴い、宇宙輸送のニーズが高まり、射場（宇宙港）のニーズも高まることが予想され、国内に宇宙港をつくる重要性に注目しています。

財源として、企業版ふるさと納税、個人版ふるさと納税、デジタル田園都市国家構想交付金を活用しており、「北海道に宇宙版シリコンバレーをつくる」という壮大なビジョンを持って取組を進めているところです。

○大樹町の視察を終えて

大樹町の「宇宙のまちづくり」は、地理的な優位性など様々な要因があった上で発展しており、当町を含め他の市町村が同様の取組を行うことは極めて困難だと考えますが、将来的なニーズや産業規模の拡大などを見据えて、計画を立て取組を進めることや、効果的なPRをすることでふるさと納税収入を増加させ、財源に充てることなど、当町の事業においても参考になることを学ぶことができたと感じました。

今回視察に当たり、対応して頂きました大樹町の関係各位に感謝申し上げ、視察報告といたします。

以上、総務産業常任委員会道内行政視察報告といたします。

(報告書文責 委員長 佐藤 英司)